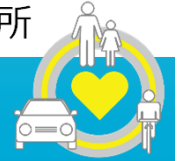


生活道路対策エリアにおける 凸部等技術基準の運用状況調査結果(抜粋)

国土技術政策総合研究所
道路交通安全研究室

H30.9



調査の概要

- 平成29年12月末までに登録のあった生活道路対策エリア(以下、「対策エリア」)に対して、アンケートを実施
- 対象470エリアのうち、約8割にあたる369エリアから回答
- 「凸部、狭窄部及び屈曲部の設置に関する**技術基準**(以下、「**技術基準**」)の**運用状況を中心に調査**

▼アンケート調査の概要

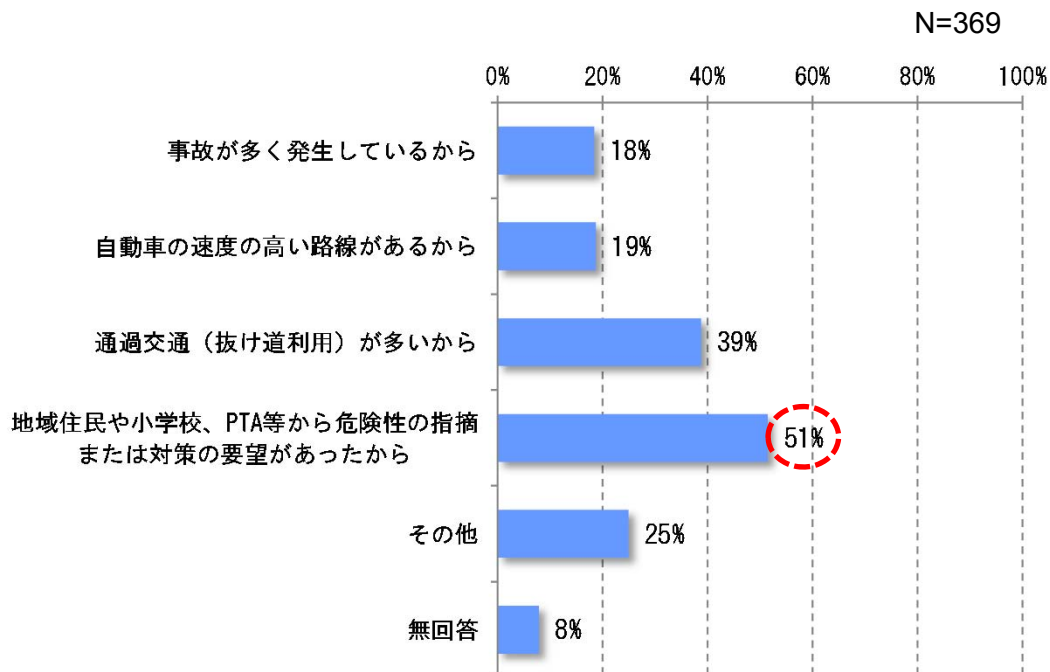
	調査項目	主な調査内容
(1) 計画	選定理由	・対策エリアの選定理由
	対策の段階	・対策エリアにおける検討の段階
	調査・データ	・利用した調査結果・データとその有用性
	対策の種類	・検討した対策の種類と検討結果、選定・非選定の理由
	地域住民との連携	・地域住民と連携して行った取組み
(2) 凸部・狭窄部・屈曲部の構造	技術基準の参考の有無	・構造検討における技術基準の参考の有無
	構造	・具体的な構造と設定根拠
	視認性	・視認性に関する配慮事項
	景観・積雪への配慮	・景観への配慮事項、積雪への配慮事項
(3) 全般	交通安全対策全般	・共有してほしい技術情報、ノウハウ、その他意見等



対策エリアの選定理由

- 地域住民や小学校からの指摘、要望があった箇所を対策エリアとすることが多い
- その他理由では、ゾーン30、通学路交通安全プログラムの対象地が多い

▼対策エリアの選定理由



その他理由の例

理由	回答数
ゾーン30エリアに指定されているため	10
通学路交通安全プログラムの対象地区のため	9
通学路に指定されたおり、通学児童の利用頻度が高いため	4

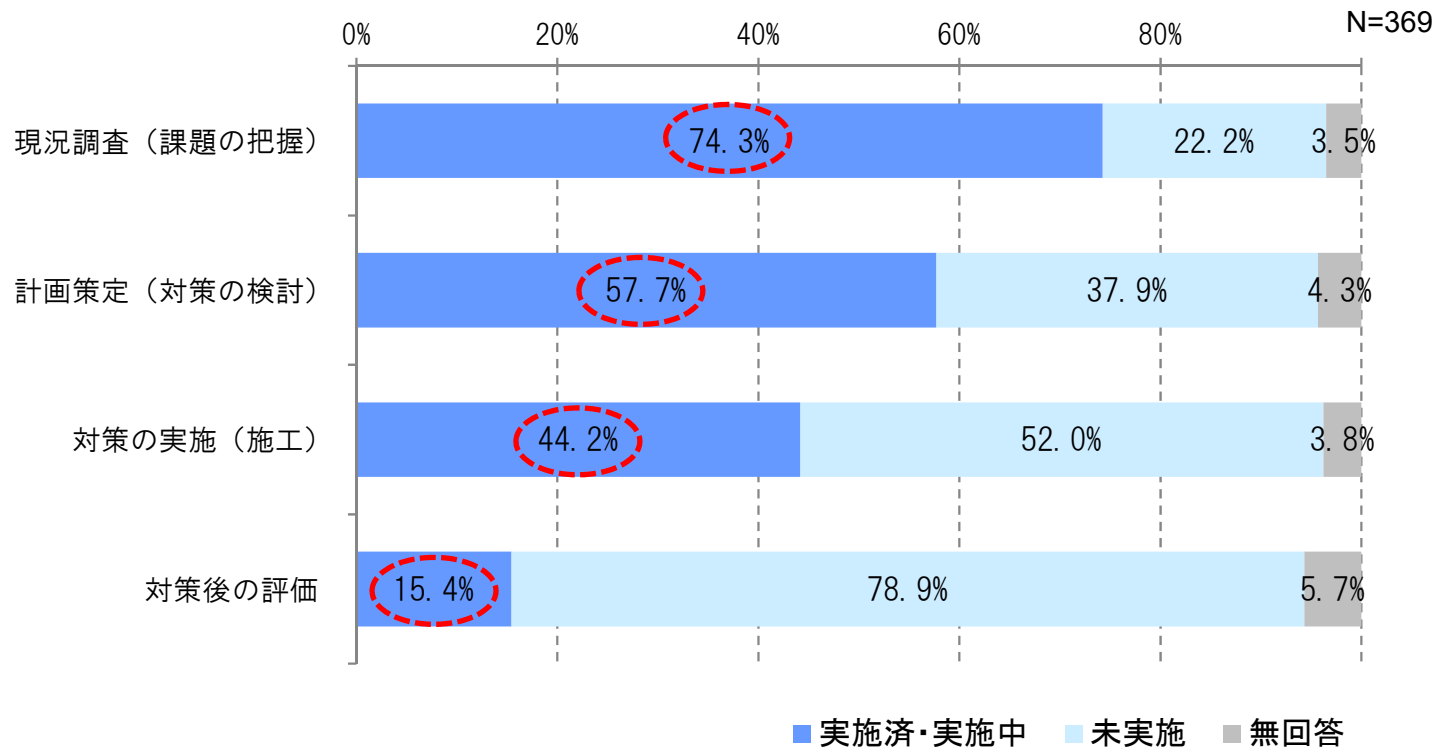
※複数回答可
 ※N=全回答地区数



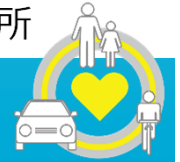
対策エリアの検討状況

- 現況調査が約7割、計画策定が約6割と**多くの地域で検討**されている
- 対策が約4割、評価が約2割実施済と対策・評価が実施されてきている

▼対策エリアにおける検討の段階



※複数回答可
 ※N=全回答地区数

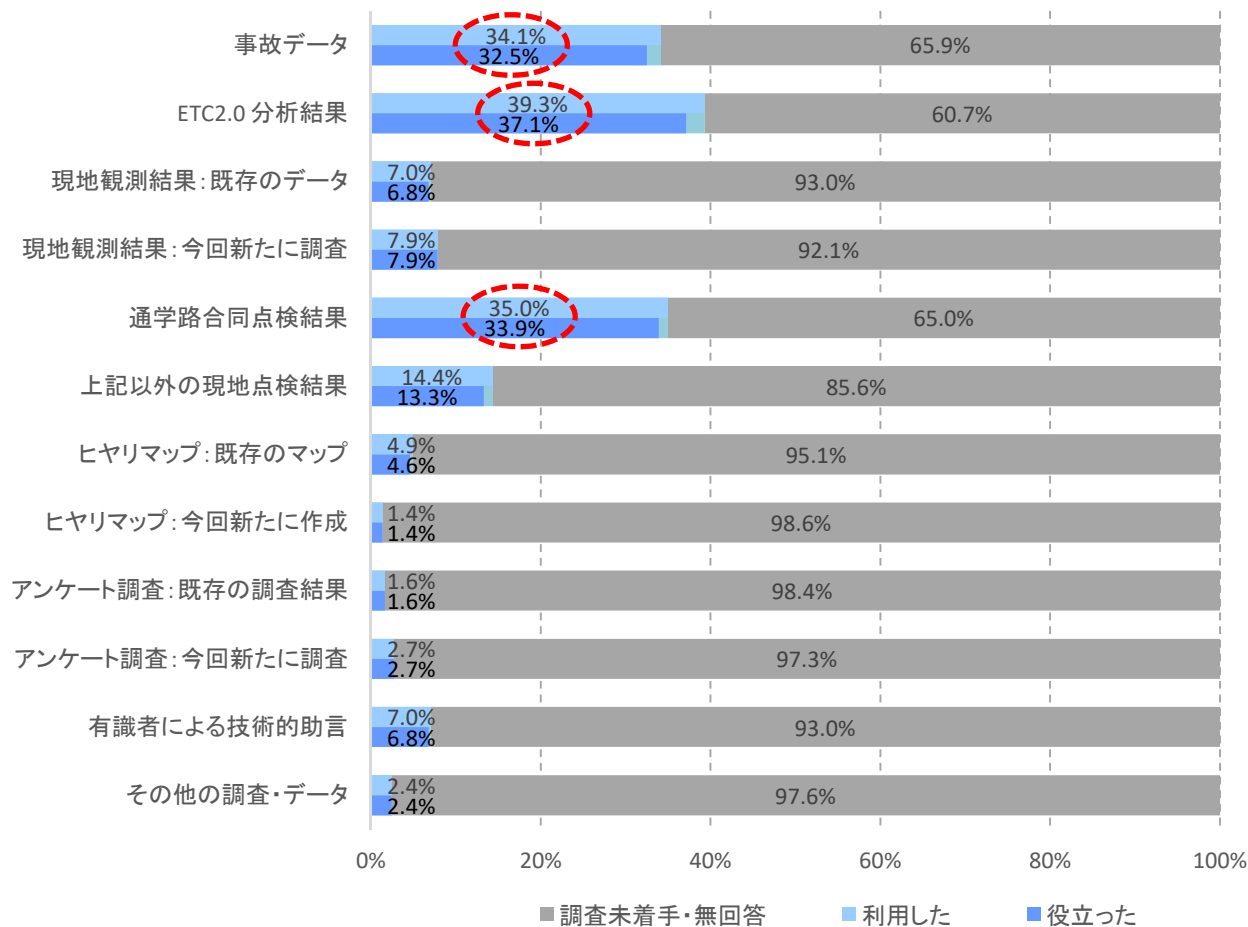


利用した調査結果・データ

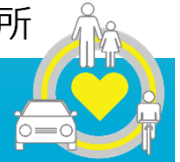
- ETC2.0分析結果が最も多く、次いで通学路合同点検、事故データが多い
- 利用したデータについて、ほとんどが“役立った”と回答

▼利用した調査結果

N=369



※複数回答可
※N=全回答地区数

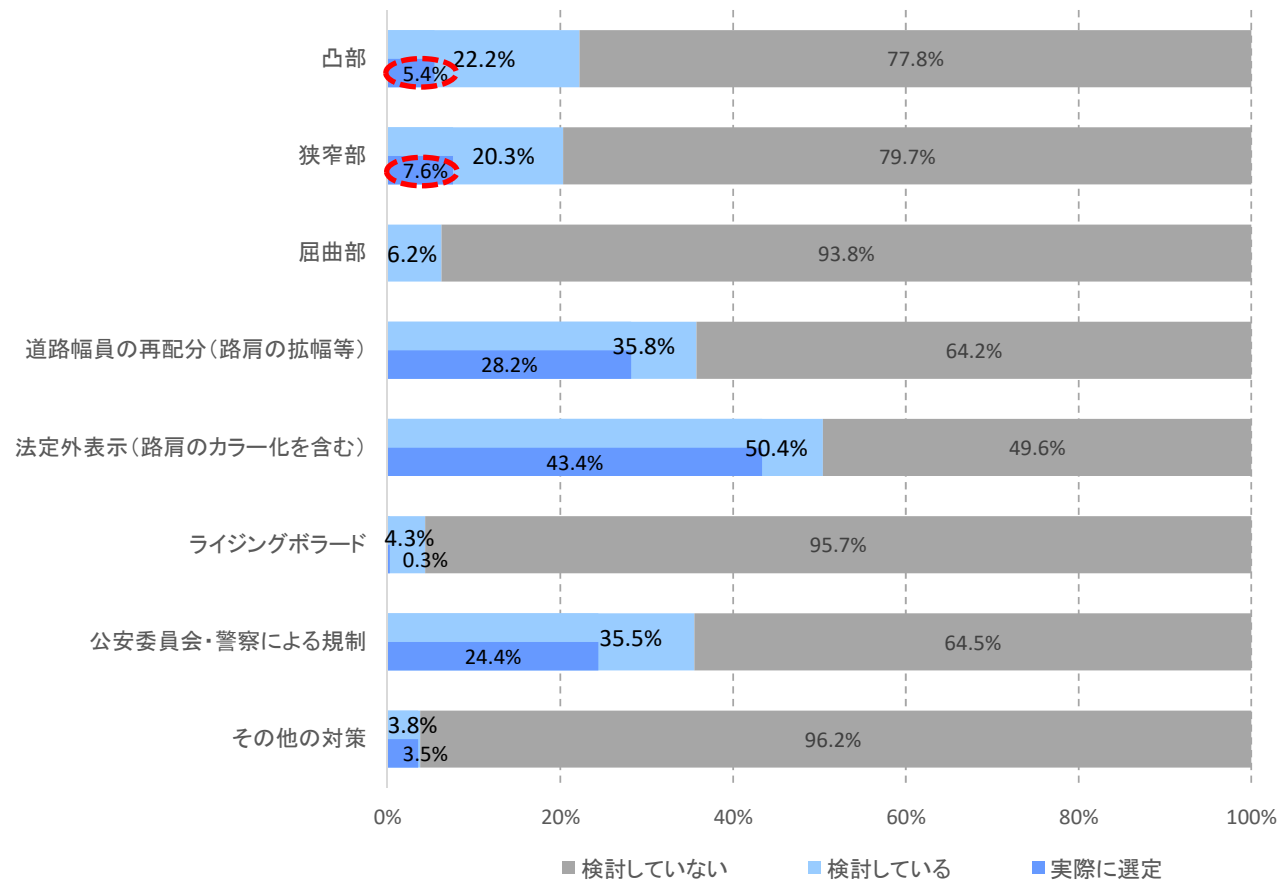


検討した対策の種類

○ 凸部、狭窄部を検討したエリアの内、約3割で実際に対策を選定

▼ 検討した対策の種類

N=369



※複数回答可
※N=全回答地区数

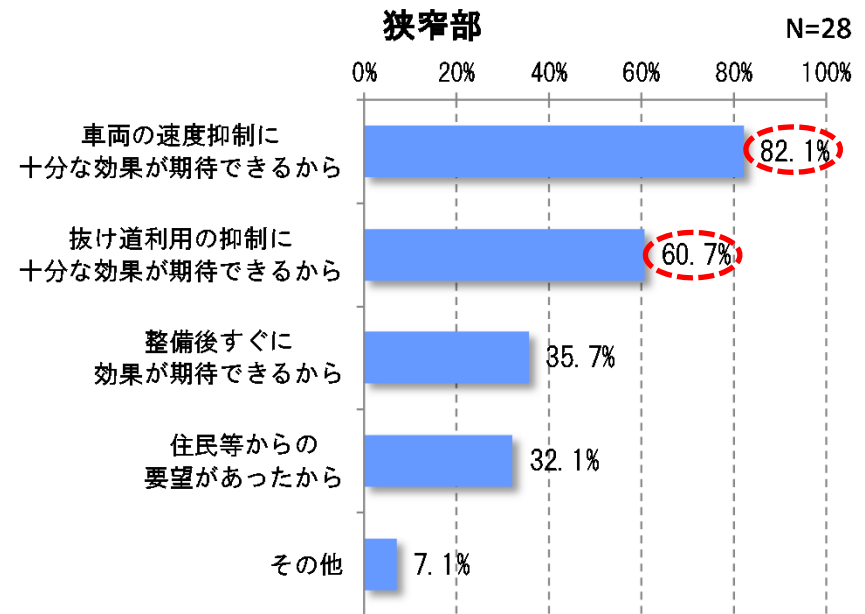
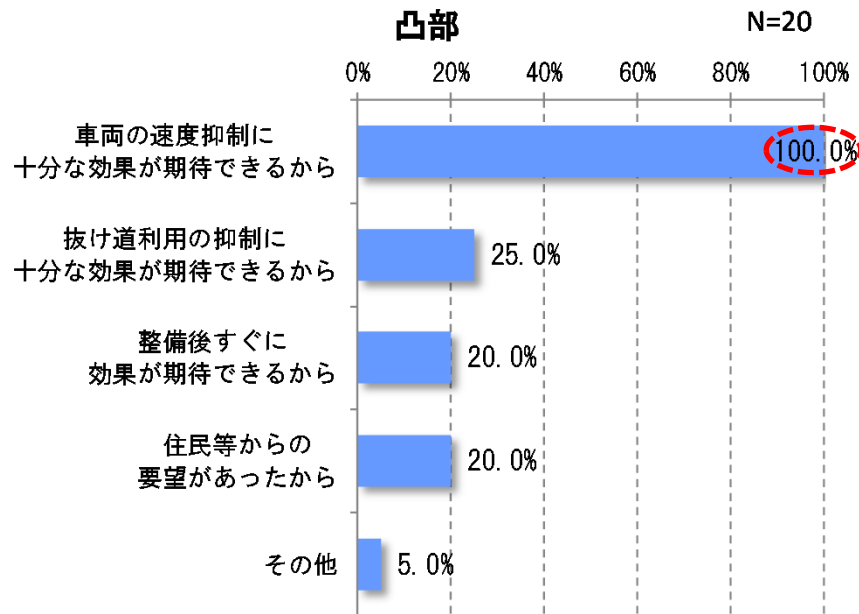
※その他回答例＝ゾーン30エリア指定、外側線引き直し、スムーズ歩道等



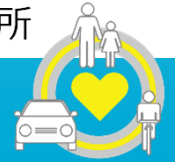
物理デバイス(凸部、狭窄部)の選定理由

- 選定理由の多くは、「車両の速度抑制が期待できる」ものが多い
- 狭窄部は、「抜け道利用の抑制を期待する」ものも多い

▼物理デバイス(凸部、狭窄部)の選定理由



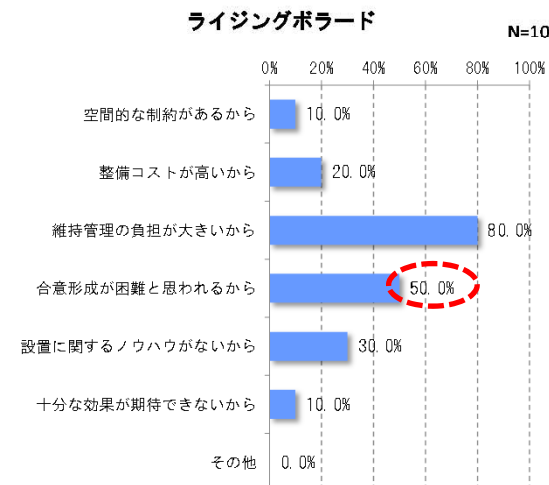
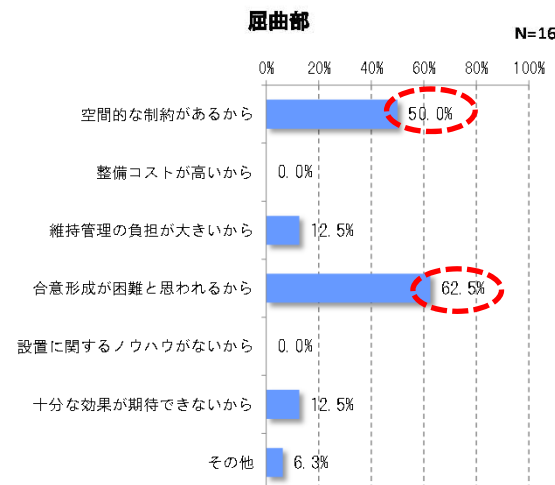
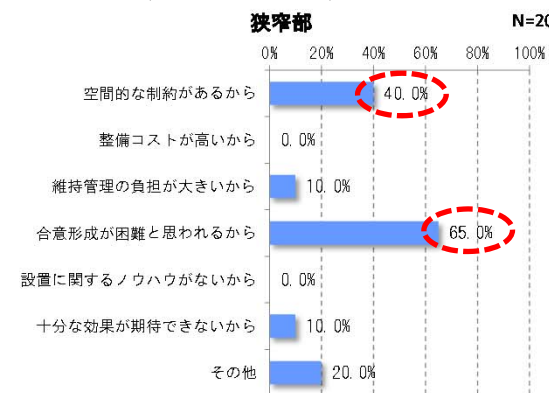
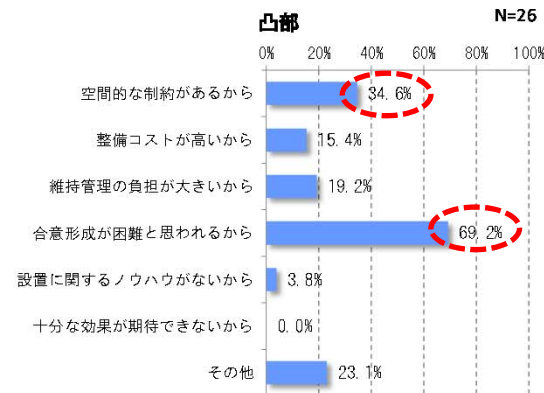
※複数回答可
 ※各対策が“実施済”または“現状の案に含まれる”と回答した自治体を母数とした



物理デバイス(凸部、狭窄部、屈曲部、ライジングボラード)の非選定理由

- 非選定理由の多くは、「合意形成が困難と思われる」
⇒ 合意形成を円滑にする支援が求められる
- その他、「空間的な制約」によるものが多い

▼物理デバイス(凸部、狭窄部、屈曲部、ライジングボラード)の非選定理由



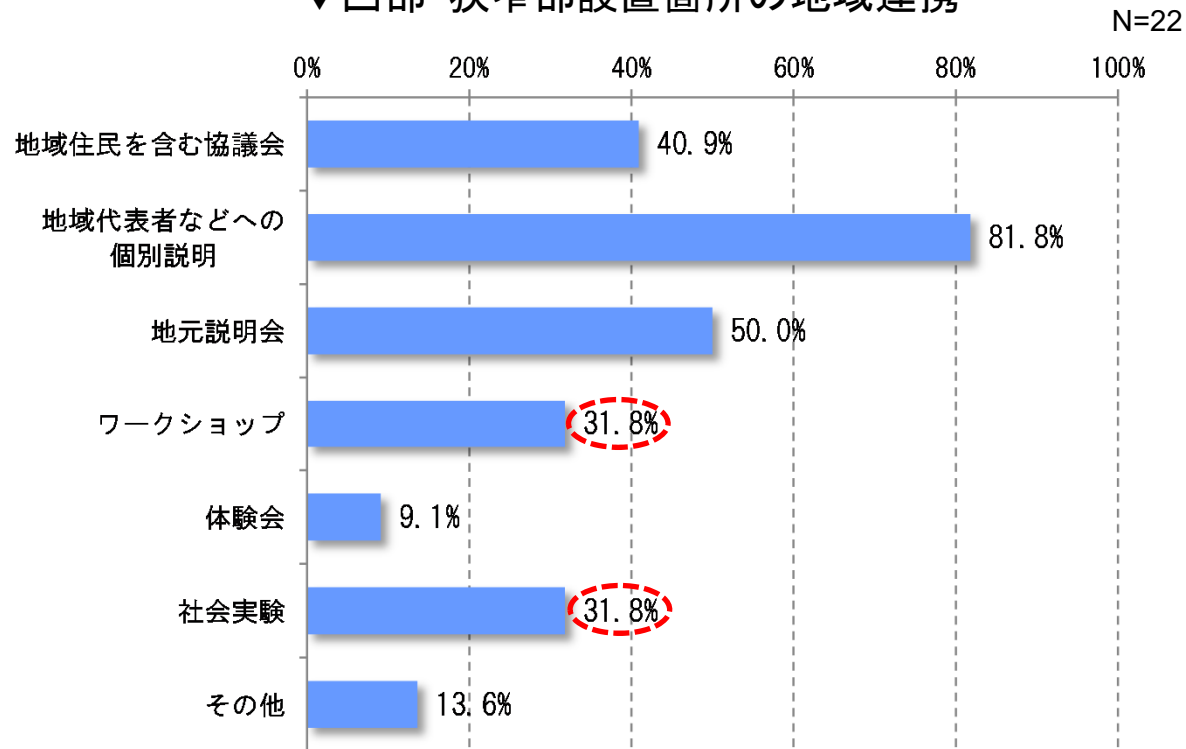
※複数回答可
 ※N=各対策が“現状の案に含まれない”と回答した自治体を母数とした



地域住民との連携

- 実施した地域連携の内、「**地域代表者などへの個別説明**」が最も多く、次いで、「**地元説明会**」をすることが多い
- 地域住民との**連携方法は多様**であり、ワークショップや社会実験等も実施

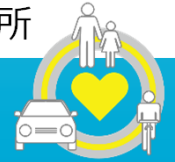
▼凸部・狭窄部設置箇所の地域連携



※その他回答例＝合同現地地点検、自治会への広報誌の配布等

※複数回答可

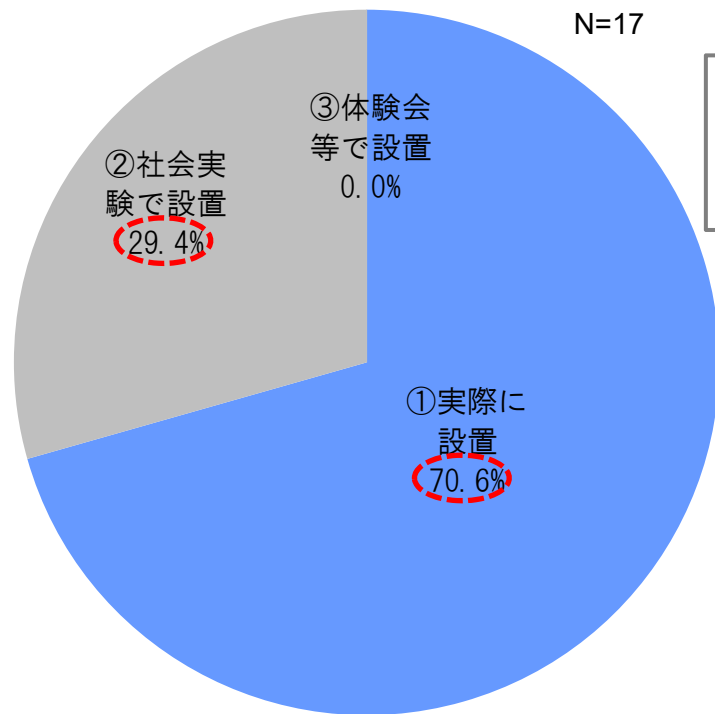
※凸部または狭窄部を”実施済み”のエリア数を母数(N=22)



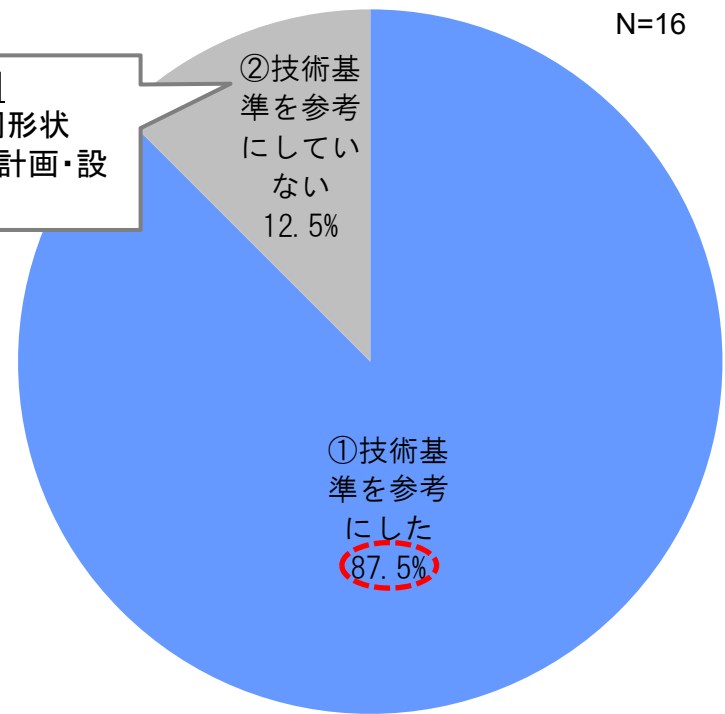
凸部の構造検討と技術基準の参考

○「実際に設置」、「社会実験で設置」した自治体の内、約9割が「技術基準を参考にした」と回答

▼凸部設置状況



▼技術基準の参考の有無



【その他設定根拠】
 ・既往のハンプと同形状
 ・「物理デバイスの計画・設計」資料を参考

※N=対策実施、社会実験実施エリア数。ただし、エリア内で複数設置し、形状が異なる場合はそれぞれを母数に含めた

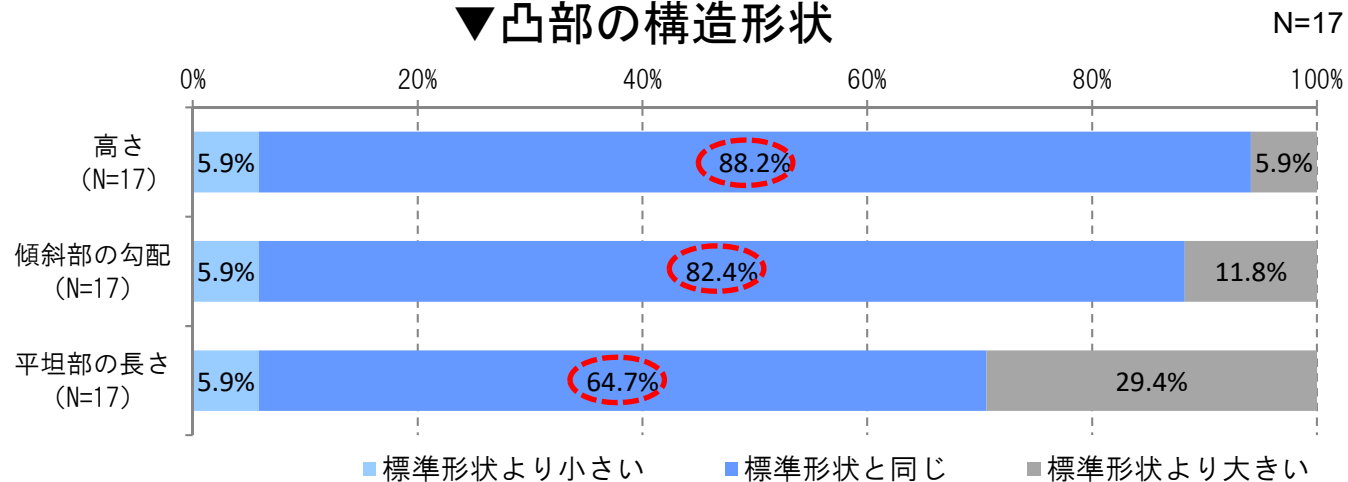
※N=対策実施、社会実験実施エリア数



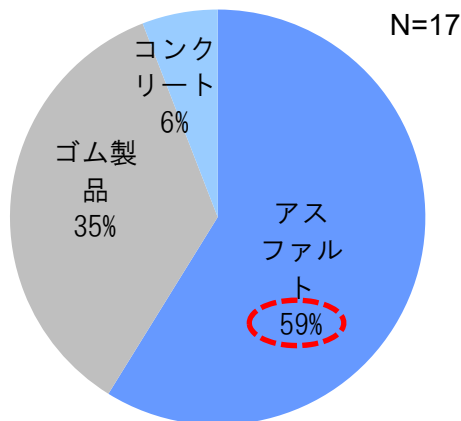
凸部の構造形状、材料

- 形状は、技術基準の標準形状と同様のものがほとんどを占める
- 材料は約6割がアスファルトであり、着色は赤色・ベンガラ色の採用が多い

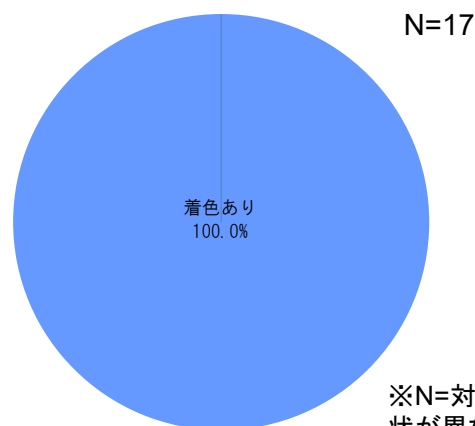
▼凸部の構造形状



▼凸部の材料



▼凸部の着色の有無



凸部の着色

	回答数	割合
赤	6	35%
ベンガラ色	7	41%
茶褐色	2	12%
黒	1	6%
不明	1	6%
計	17	100%

※N=対策実施、社会実験実施エリア数。ただし、エリア内で複数設置し、形状が異なる場合はそれぞれを母数に含めた

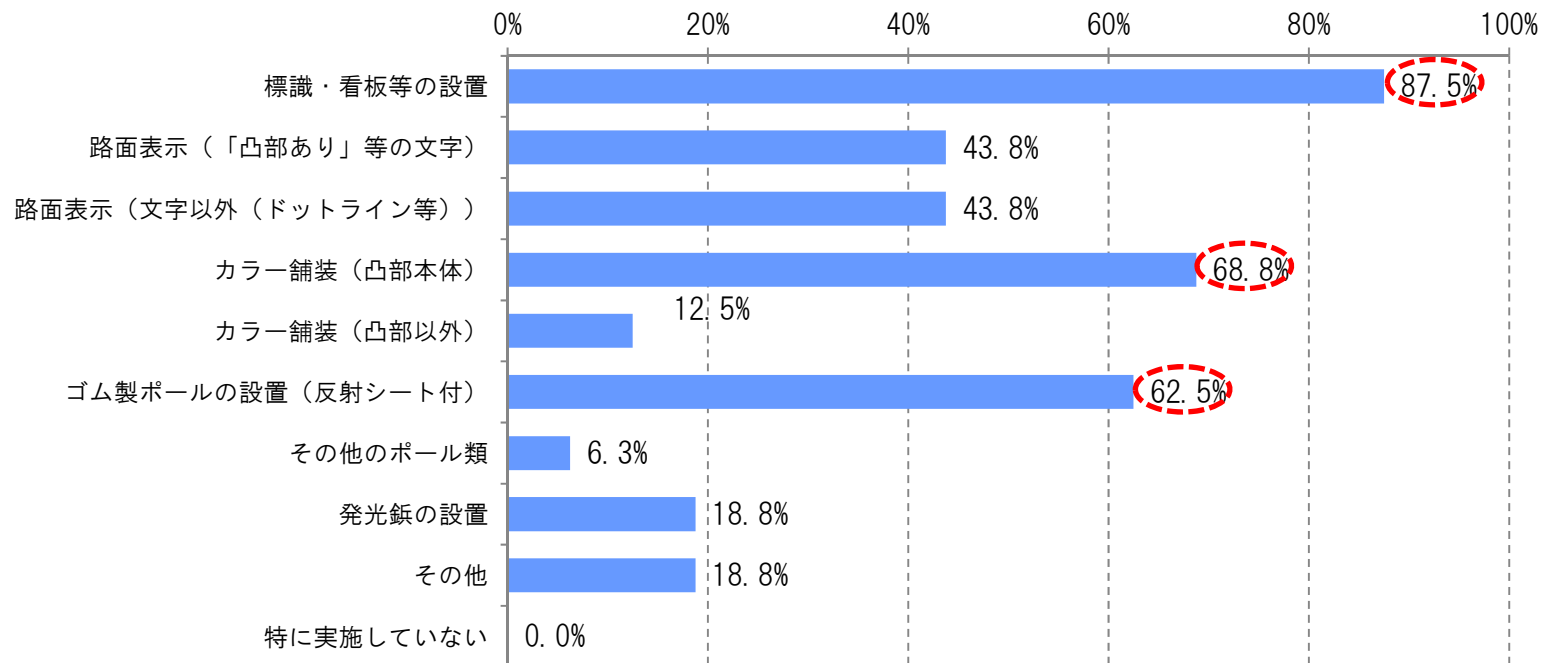


凸部の視認性向上

- 多くの設置箇所で「**標識・看板等**」を設置
- カラー舗装（凸部本体）、ゴム製ポールを設置することでも視認性向上を図っている

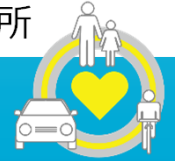
▼凸部の視認性向上についての実施事項

N=16



※複数回答可

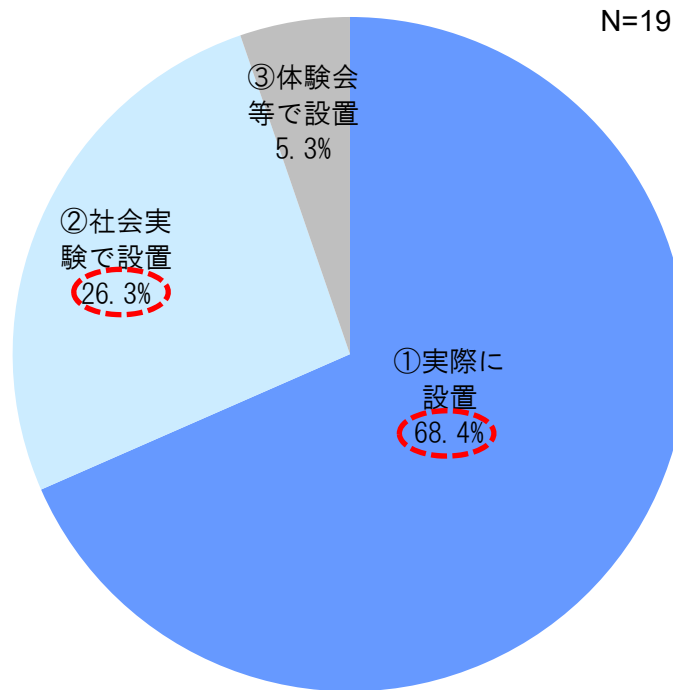
※N=対策実施、社会実験実施エリア数



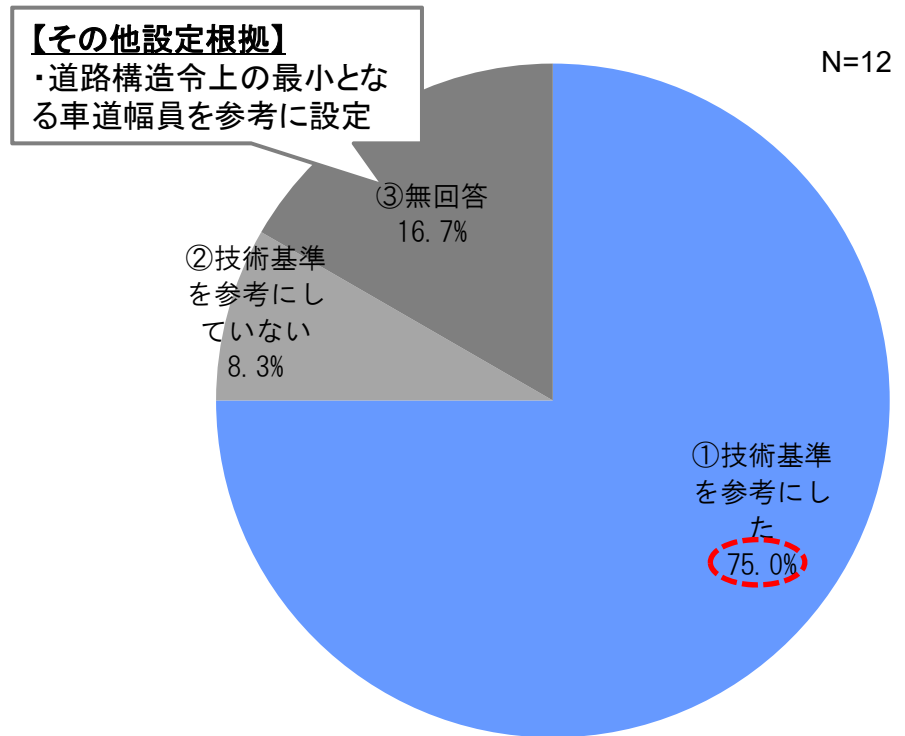
狭窄部の構造検討と技術基準の参考

○「実際に設置」、「社会実験で設置」した自治体の内、約8割が「技術基準を参考にした」と回答

▼狭窄部設置状況



▼技術基準の参考の有無



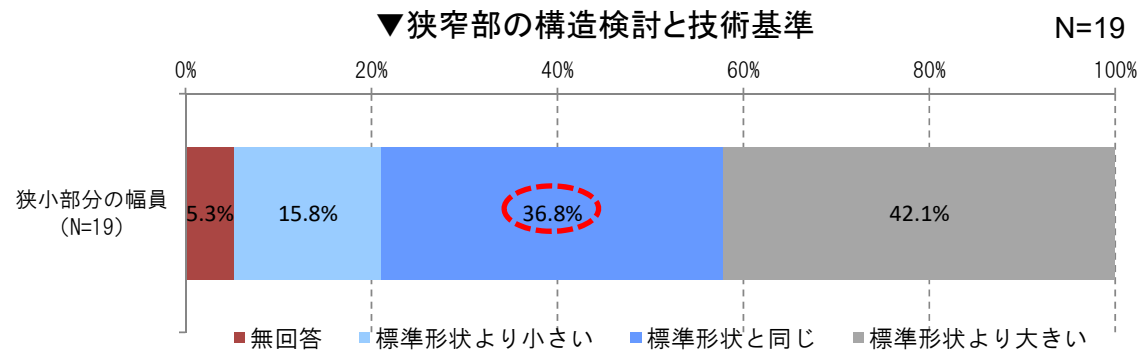
※N=対策実施、社会実験実施エリア数。ただし、1エリア内で複数設置の場合は、それぞれを母数に含める

※N=対策実施、社会実験実施エリア数

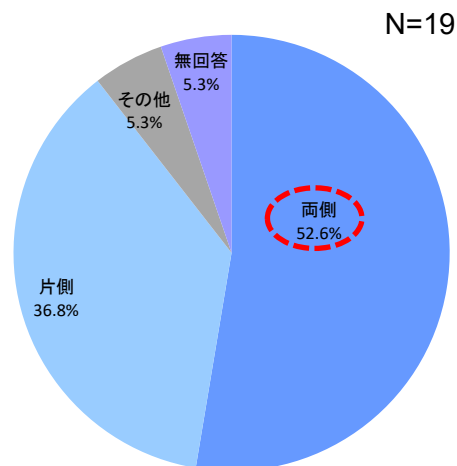


狭窄部の構造検討と技術基準

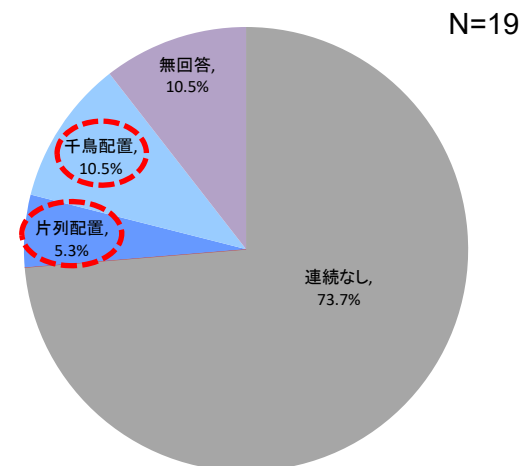
- 狭小部分の幅員は、技術基準の標準形状と同様のものが約4割を占める
- 張り出し形状は約6割が両側張出しを占める
- 連続配置している自治体は、千鳥・片列にて配置



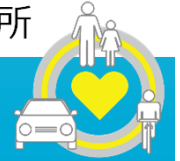
▼張り出しの形状



▼連続配置の有無



※N=対策実施、社会実験実施エリア数。ただし、1エリア内で複数設置の場合は、それぞれを母数に含める

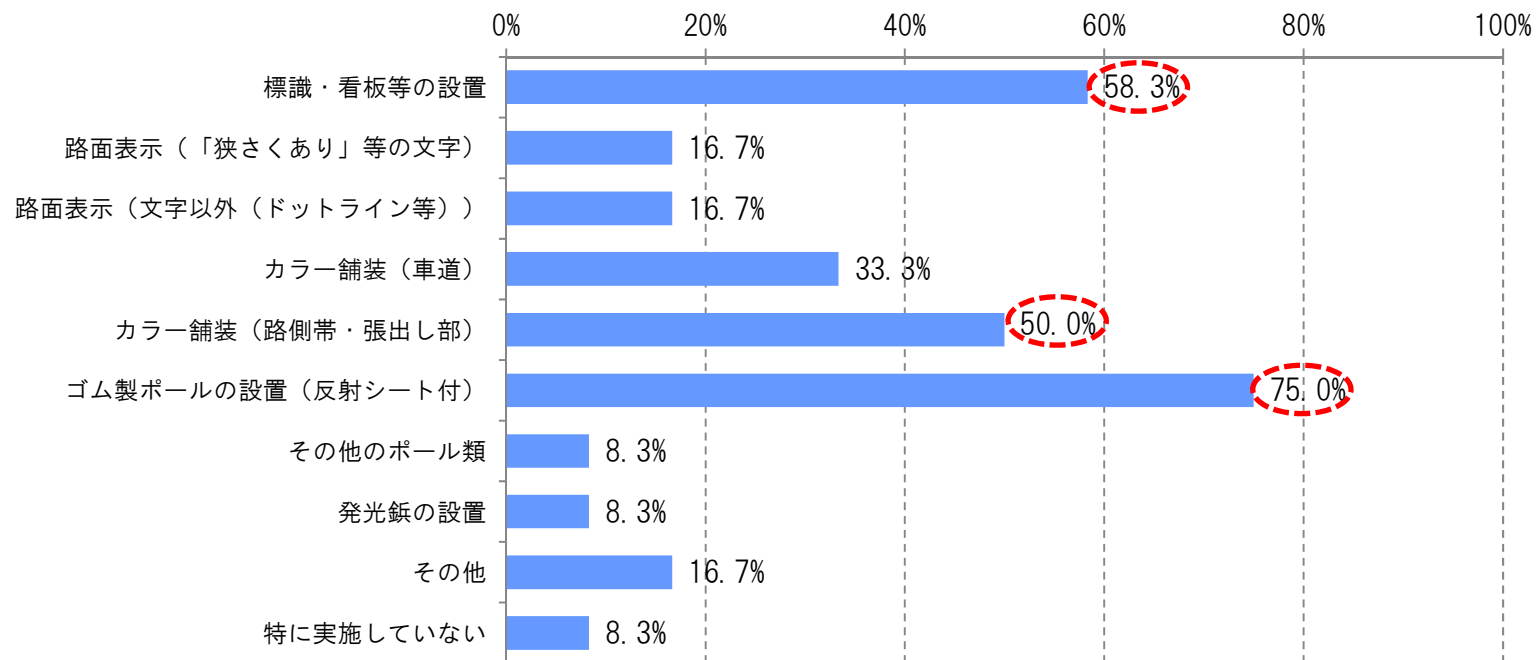


狭窄部の視認性向上

- 約8割が「**反射シート付きゴム製ポール**」を設置
- **標識・看板、カラー舗装**を設置することでも視認性向上を図っている

▼狭窄部の視認性向上

N=12



※複数回答可

※N=対策実施、社会実験実施エリア数